栄養士養成施設における校外実習の課題
過去４年間を振り返って
～実習施設担当者の評価から～

Problems of extracurricular practice at nutritionist training facility
Looking back over the past four years
From the evaluation of the practitioner

小　林　澄　枝※　　八木橋　由　佳※
Sumie Kobayasi　　Yuka Yagihasi

Abstract

For the purpose of helping suburban practical guidance, I reviewed and examined based on the institutional dietitian evaluation in the past 4 years. It turned out that there was a difference between the student's perception and the evaluation of the trainee. From now on, it is a problem to improve guidance on improving aggressiveness with low evaluation, acquiring knowledge and skills, studying for the challenge of practice, and need for preparatory preparations.

はじめに

栄養士養成施設カリキュラムの必修科目として校外実習１単位がある。校外実習の目的は、「給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させること」とあり実際の栄養士・管理栄養士業務の理解を学生に促す効果が高く、栄養士育成には、重要な科目となっている。学生達は、２週間、病院・事業所・高齢者福祉施設・小学校・学校給食センターなどの特定給食施設で、管理栄養士や栄養士の指導を受けて、給食の運営に係わる実習を行う。

郡山女子大学短期大学部　健康栄養学科では、校外実習指導は、集中講義として事前・事後指導を行っている。(公社) 日本栄養士会、(一社) 全国栄養士養成施設協会編の臨地実習及び校外実習の実際 (2014年版) [1] に基づき、事前指導では、学習目標／行動目標においては、大きく「課題発見 (気づき)、問題解決」と「専門的知識と技術の統合」の２項目が設定されている。したがって、実習の前に関連科目の履修を終えることや、事前準備に十分な時間を掛けて実習の目的や目標、実習施設の概略を学生に周知・動機づけ、知識の整理、研究課題の検討

※　健康栄養学科

を行うことが求められている。さらに、事後指導では、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、実習内容を整理させ、課題の達成度、反省点、考察などを実習ノートに記載する。平成14年４月に施行された改正栄養士法では、「校外実習」の教育目標には、「課題発見（気づき）、問題解決」と「専門的知識と技術の統合」という２つのキーワードが含まれている。実習施設と養成施設では、出来ることや役割が異なっていることを踏まえ、実践に移すことが重要である。

先行研究において、校外実習を充実させる大きな要因が、事前指導の充実にあるという報告[2)]や校外実習の学習効果を検討した結果、実習前後にセルフエフィカシ―が高まるという報告[3)]があった。本学科においても、学習効果の高い実習とするために、事前指導では、学習済みの講義や実習の内容を繰り返し指導している。また、外部講師による管理栄養士・栄養士の業務内容についての講話や衛生管理講習会も行っている。

実習先の確保や班の編成を中心に、学科の教員は15施設を分担して巡視し学生指導にあたっている。各実習施設からの学生の評価は、臨地実習及び校外実習の実際（2014年版）に記載のモデルフォーマットを利用している。評価の観点は、各施設の栄養士に委ねているため、良い評価を受ける施設もあるが、「積極性が足りない」、「マナーが守られていない」、「努力が足りない」など厳しい評価を受ける施設もある。

水野ら[4)]の研究では、病院栄養士には病気や治療に関する高い専門性、高齢者福祉施設の栄養士には利用者に対する温かい心、小学校・給食センターの栄養士には指導力、事業所給食の栄養士には運営能力や接客能力が求められる。そのため施設それぞれが求められる栄養士像も多岐にわたっていること。また、西川らは、[5)]施設側の求める内容と学生の認識の相違点や、実習施設やグループ人数などの実習条件も評価に影響するのではないかなど施設間に評価の差があることを報告している。

そこで、実習施設先担当者の評価を基に過去４年間（平成26年～平成29年）を振り返り、次年度のために役立てる目的で集計を行った。

本研究は、校外実習に対する学生の①意識や態度、行動について実習の事前事後の変化を検討するとともに②実習先の評価から問題点を抽出し、把握することで、実習の事前・事後指導を充実させるべき点を検討し、また、これまでの事前・事後指導の内容が、③学生のニーズに対応し、適切なものであったかを見直し、校外実習の教育内容の充実を図ることを目的として検討を行った。

学生の自己評価は、学生が校外実習終了後に表１に示す10項目目について評価を行った。施設側評価は、実習指導者が校外実習終了後に表２に示す８項目について評価を行った。

評価方法については、学生自己評価は表１の８項目について４「大変よくできた」、３「よ

くできた」、２「時々できなかった」、１「常にできなかった」の４段階で評価し、施設側評価は、表２の８項目についてA「大変優れている」B「優れている」C「普通である」D「やや努力が不足している」E「努力が足りない」５段階で評価した。また、記述式で総合評価も記入していただいた。項目内容は言い回しが異なるが、同じ内容である。

評価の統一については、表３に示す。

表１．学生自己評価項目

１．実習をさせていただくという謙虚な態度であったか。
２．学生らしい態度・服装・言葉使いであったか。
３．自主的、積極的に行動できたか。
４．責任をもって行動できたか。
５．意志表示がはっきりとできたか。（挨拶・返事等）
６．身仕度は清潔にできたか。（つめ・アクセサリー・時計・帽子・白衣等）
７．勤務時間を守ったか。
８．安全を心がけたか。
９．体調はベストであったか。
10．給食の運営の実際を知ることができたか。
11．総体評価

表２．施設側評価項目

１．時間、指示、規則を守っていたか。
２．身だしなみが実習に適切であったか。
３．挨拶・言葉使いが適切であったか。
４．諸注意を守り節度・協調的態度であったか。
５．積極的に実習に取り組んでいたか。
６．仕事に責任を持っていたか。
７．実習指導者への連絡・報告・記録を速やかに出来たか。
８．実習目標は達成されたか。
９．総合評価
10．自由記述

表３．評価の統一について

施設側評価（５段階評価）	学生の自己評価（４段階評価）
A「優」	4「大変よくできた」
B「良」	3「よくできた」
C「可」 D「可」	2「時々できなかった」 〃
E「不可」	1「常にできなかった」

表４．平成26年度～平成29年度　校外実習（給食論実習Ⅲ）に関する日程表

給食論実習Ⅲ（病院・福祉施設・学校・事業所）

	時　間	内　容
第１回 オリエンテーション	Ⅳ時限	給食論実習Ⅲ（校外実習）について。校外実習の心得について。 実習施設の説明及び希望調査について。 校外実習に関わる集金について。〈集金3,500円〉 ※配布物…校外実習の心得、施設一覧、地図、希望票
第２回 オリエンテーション	Ⅳ時限	実習施設希望票の回収。集金。 ※配布物…実習ノート
第３回 オリエンテーション	Ⅴ時限	実習施設の発表。実習施設ごとの顔合わせ。挨拶日の電話のかけ方。 ※配布物…実習生名簿
第４回オリエンテーション		施設ごとに全員が揃っている時に各施設のリーダーの方が実習先に電話をする。
第５回 オリエンテーション	Ⅴ時限	挨拶日の日時などについて報告、挨拶の仕方など。 ※配布物…打ち合わせ報告書用紙(各施設に１枚)、保菌調査の為の容器
第６回 オリエンテーション	Ⅰ～Ⅳ 時限	学外講師による講話 Ⅰコマ…実習に関する諸注意・確認など。 ※配布物…出勤簿・実習証明書・腕章・カードケース・実習反省記録用紙（下書き用） Ⅱコマ…病院給食の実際について Ⅲコマ…福祉施設給食の実際について Ⅳコマ…学校給食の実際について
第７回オリエンテーション		保菌検査 受付時間　8：30 ～ 12：00　時間厳守　　各自、名票にチェックする。
第８回 オリエンテーション		実習施設挨拶 実習中の持参品・実習開始までの課題・その他の注意事項について伺うこと。 実習期間中、準備が必要な事項について指導を受ける。 →→　これらの結果を打ち合わせ報告書に記入し、提出する。 ※授業休講、異装のないように
第９回オリエンテーション		給食論実習Ⅲ　校外実習
第10回 オリエンテーション	Ⅴ時限	出勤簿・実習証明書・腕章・実習反省記録用紙（下書き・鉛筆で記入したもの）・実習ノート提出。 お礼状の下書き回収。
第11回 オリエンテーション	Ⅰ～Ⅱ 時限	校外実習成果発表会 実習反省記録（下書き）返却。
第12回オリエンテーション		実習反省記録用紙（清書）提出。 実習ノートは後日返却します。

（１）調査の概要

１）事前・事後指導の内容

校外実習事前・事後指導カリキュラム（表４）は、毎年、実習施設の評価より見直しを行っている。平成26年度から平成29年度までの４年間は、給食管理実務論や大量調理施設衛生管理マニュアルの復習を行った。また、外部講師によるオリエンテーションを４時限実施し、独自の冊子「校外実習の心得」は、マナーを中心に校外実習に臨むにあたって具体的注意事項について指導を行っている。事前指導は、11時限、事後４時限行った。

２）校外実習のスケジュール

校外実習（給食論実習Ⅱ）に関する日程を表４に示す。

校外実習を希望する学生は、１年次後半に２年生の校外実習成果報告会に参加し、実習状況を聴講し、校外実習の目的や実習施設、実習内容を理解する。２年次では、学科として校外実習の履修生としての資格要件があり、以下の４項目を条件としている。①栄養士過程履修費が納入されている。②栄養士過程必修科目でⅢ期までに開講されている科目の単位を全て修得している。③１年次のGPAが１．４以上である。④本学の「建学の精神」を理解し、実践しているとみなされる。以上の要件を満たした２年生は、実習施設の希望調査票に興味のある施設または、通勤しやすい施設を選んで記入する。担当教員は、学生の希望する実習施設（事業所、高齢者福祉施設、学校、病院）と居住地を照らし合わせながら、実習施設へ依頼を行う。２年次は、６月から事前指導が始まり、夏休み明けに実習施設の発表、校外実習は、（10月末～11月中旬）に行う。実習終了後は、実習施設へのお礼状の発送、校外実習ノートの提出を行う。11月下旬～12月中旬には、校外実習成果発表会で学んだ事柄を発表する。

以下、事前・事後指導の具体的な内容を示す。

３）事前指導

校外実習にあたり、外部講師を招き、病院給食、学校給食、事業所給食、福祉施設給食の管理栄養士より講演をいただく。担当教員は、マナー講座（電話のかけ方、挨拶の仕方、身だしなみ、衛生管理など）、の指導を行う。その際、校外実習にあたっての不安に感じることなどアンケート用紙に記入する。

４）事後指導

校外実習成果報告会は、校外実習で学び得たことを施設ごとにパワーポイントを使って１人

ずつ口頭で発表する。次年度に校外実習を履修する短大１年生も参加する。発表内容は、教員が採点基準に沿って採点する。

５）実習施設と受け入れ学生数

平成26年から平成29年までの４年間の校外実習の実習施設数と１施設あたりの学生数を表５に示す。実習施設は、履修学生の人数や居住先、希望状況により年度ごとに実習施設の種類、数が異なっているが、概ね人数の増減に関しては、実習先担当栄養士の柔軟な対応で実習することが可能となっている。

表５．実習施設と１施設当たりの受け入れ平均人数

	受け入れ施設	小学校	病　院	福祉施設	事務所
平成26年度	15	3	2	2	2
平成27年度	17	3	3	3	4
平成28年度	15	3	3	2	4
平成29年度	14	3	3	2	4

６）実習施設

評価項目は、①時間、指示、規則を守ったか。②身だしなみが実習に適切であったか。③挨拶・言葉使いが適切であったか。④諸注意を守り節度・協調的態度であったか。⑤積極的に実習に取り組んでいたか。⑥仕事に責任を持っていたか。⑦実習指導先への連絡・報告・記録を速やかに出来たか。⑧実習目標は、達成されたか。⑨総合評価の９項目となっている。各項目の採点は、A「大変優れている」、B「優れている」、C「普通である」、D「やや努力が不足している」、E「努力が足りない」の５段階の順に５点、４点、３点、２点、１点とし、同じ項目を実習施設と学生による自己評価で評価を行っている。

実習施設からの評価は、校外実習終了後に郵送で返却してもらい、学生の自己評価表は、実習ノート提出の際に記入させ回収している。

（２）結　果

１）校外実習前にあたり、学生の不安内容について

平成29年度、実習前アンケート調査の内容を図１・図２に示す。アンケートは、健康栄養学科２年生42名を対象に実習前に実施した。校外実習のイメージは、図１に示す。結果、「こわい」「不安」75.6％と高く、「楽しみ」は、９．８％と少数だった。図２.不安に思っていること

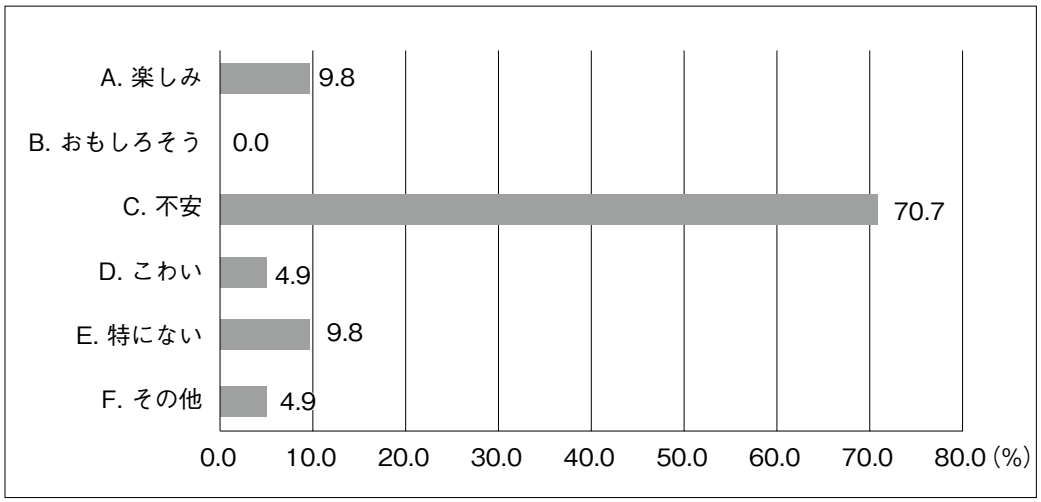

図１．校外実習のイメージ

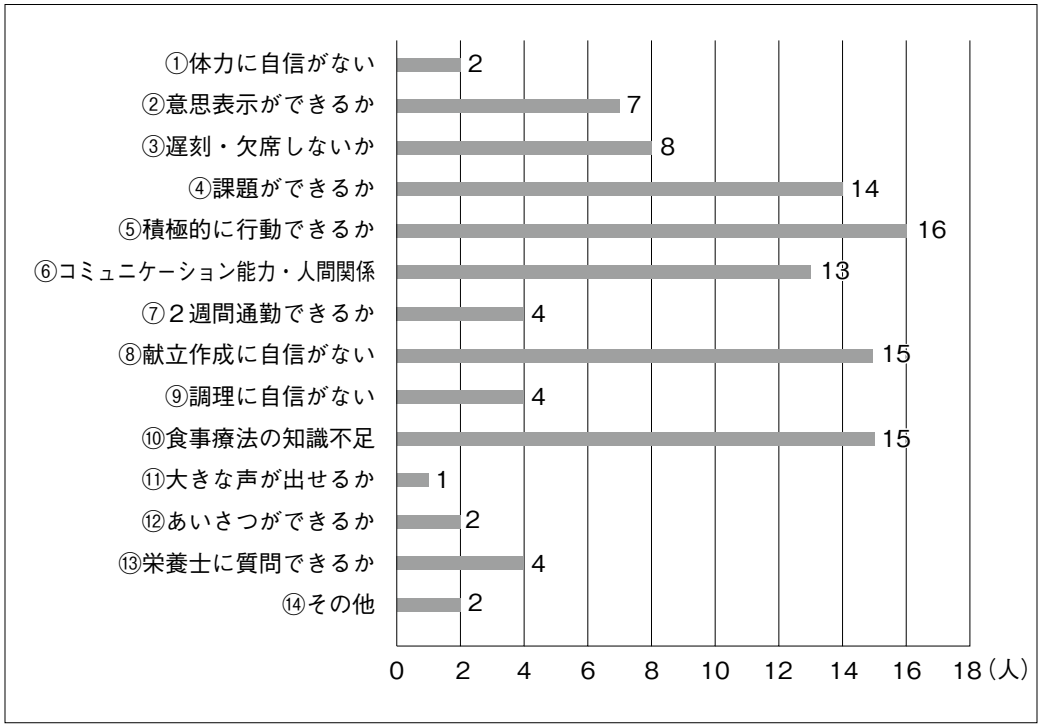

図２．実習に対し不安に思っていること（複数回答可）

は何ですか？の問いでは、複数回答のため人数で表すと「積極的に行動できるか」16名、「献立作成に自信がない」「食事療法の知識不足」それぞれ15名、「課題ができるか」14名、「コミュニケーション能力・人間関係」が13名の順に多かった。

実習前　自由記述

・ストレスがたまったらどうすればいいかわからない。

・課題をしっかりこなすことができるか。

・課題が多く不安・小学生の前で緊張しそう。

・リーダーの自信がない。

・同じ班の人が遅刻しないか心配で不安。

・人と接するのが嫌いだから心配が多い。

・学校外でいつも通りできるか不安。

実習後　自由記述

・病院栄養士は大変だと思った。

・栄養士の仕事について細かく学べて良い経験になった。

・始まる前は、不安や緊張があったが、実際は楽しくて良かった。

・学校とは違う体験をたくさん経験できた。

・手を切ってしまった。

・１つ１つの作業が大切で責任のある仕事だと感じることができた。

・今回学んだことをこれからの生活や就職先で生かしていきたい。

・厨房で包丁を使った実習をもっとやりたかった。もっと厳しくご指導してほしかった。

・自分は何をやるべきか考え行動することができ積極的に取り組めた。

・楽しくたくさんの事を学べた。

・やけどした。

・学校栄養士と調理師さんの試行錯誤で作りあげた学校給食に感心しました。

・包丁でまめができてびっくりしました。

・２週間で仕事の大変さが分かった。

・積極的に行動すれば、もっと学べることがあったと反省しました。

・普通に就職しても今の生活を維持することができないと知り良かった。

・チーム医療の大切さを学んだ。

・もっと勉強して実習に臨むべきだった。

・他のメンバーとコミュニケーションがうまくできず迷惑をかけてしまった。

・栄養士の仕事内容をより深く知ることができた。

・学んだ事を生かせた実習ではなかったと思う。

２）実習施設からの評価（意見・指摘事項）

毎年、実習施設からの評価（自由記述）があった件数は、26年10件、27年10件、28年８件、29年８件、合計で36件あった。その内の11件は、「学生の実習態度が大変良かった。」と高い評価だったが、25件は、「消極的」「報告・連絡・相談不足」が指摘された。

主な自由記述・指摘事項（平成26年～平成29年）

①病院

・課題の時間がかかり過ぎたのが残念。積極的な動きができれば良かった。

・もう少し積極的に働きかけてもらえば良かった。

・文章記載能力がリーダーとして適格ではない。

・課題の提出期限が守れない学生がいて残念でした。

・実習中は、髪の毛を短くまとめるようお願いします。

・言葉使いが友達感覚であったのが気になりました。

②福祉施設

・メモもせず話を聞くだけの姿勢です。聞いて理解を深めることが今後必要です。

・物事に対して確認することが不足しています。

③小学校・学校給食センター

・講義中居眠りしている時がありました。

・実習期間中、受け身でいることが多々見られました。

・もう少し早く行動できると良いと思います。

・お化粧は控えめにお願いします。

・元気の良い挨拶や返事は、社会に出てからの基本です。

・もう少し積極的に行動できれば良いと思います。

④事業所

・声が小さく質問しても返事が無くもう少し元気があれば良かった。

３）実習施設からの評価　（平成26年～平成29年）

過去４年間の実習施設の管理栄養士による学生の評価は図３～11に示す。

１～８の項目の中で「時間、指示、規則厳守」「身だしなみ」「挨拶・言葉使い」「協調性」「積極性」「責任感」「連絡・報告・記録」「実習目標」の中で特に評価が低いのは、平成29年では、「挨拶・言葉使い」の項目でA・B評価合わせて58.1％、「連絡・報告・記録」の項目でA・B合わせて60.5％の２項目だった。「総合評価」を過去４年間で比較すると平成26年78.3％、平成27年72.2％、平成28年82.5％、平成29年65.2％と平成29年が一番低い評価となった。

１．時間・指示・規則を守っていたか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	37.8	36.5	52.5	46.5
B：優れている	43.3	23.2	35.0	25.6
C：普通である	16.2	36.5	12.5	25.6
D：やや努力が不足している	2.7	3.8	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

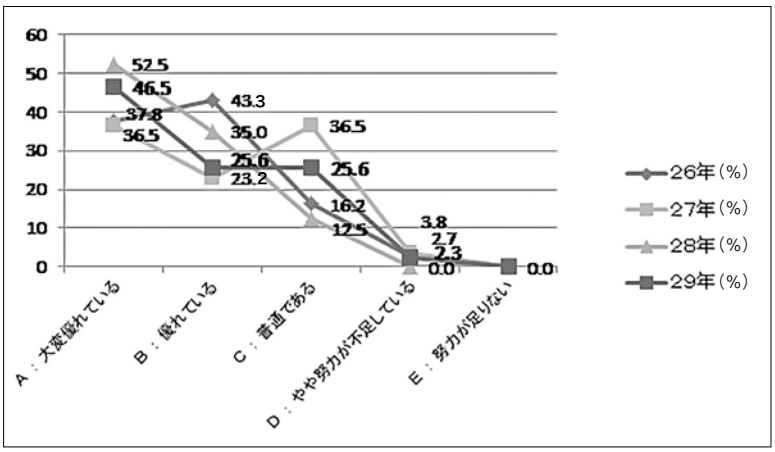

図３．時間・指示・規則を守っていたか

２．身だしなみが実習に適切であったか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	59.5	44.2	60.0	58.1
B：優れている	21.6	26.9	20.0	9.3
C：普通である	16.2	28.8	20.0	30.2
D：やや努力が不足している	2.7	0.0	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

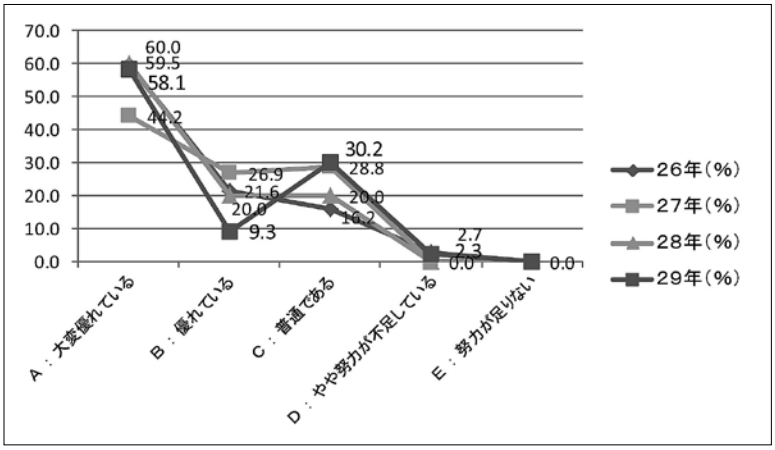

図４．身だしなみが実習に適切であったか

３．挨拶・言葉使いが適切であったか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	43.2	44.2	42.5	48.8
B：優れている	40.5	26.9	22.5	9.3
C：普通である	10.8	28.8	35.0	39.5
D：やや努力が不足している	5.4	0.0	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

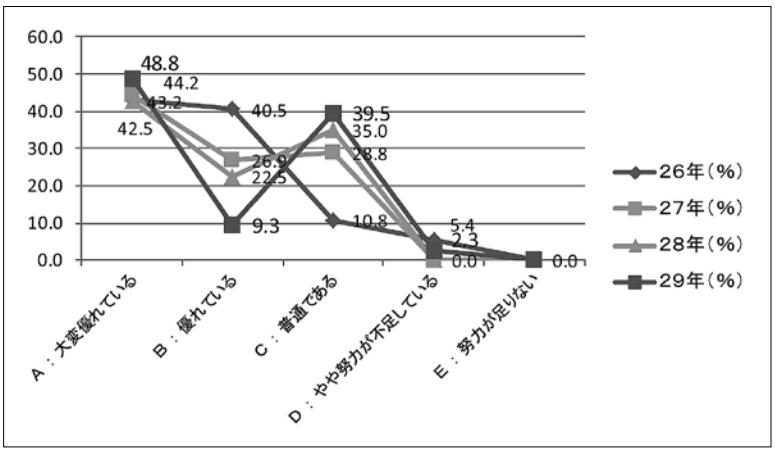

図５．挨拶・言葉使いが適切であったか

４．諸注意を守り節度・協調的態度であったか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	37.8	32.7	60.0	41.9
B：優れている	48.6	46.2	25.0	23.3
C：普通である	8.1	19.2	15.0	32.6
D：やや努力が不足している	5.4	1.9	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

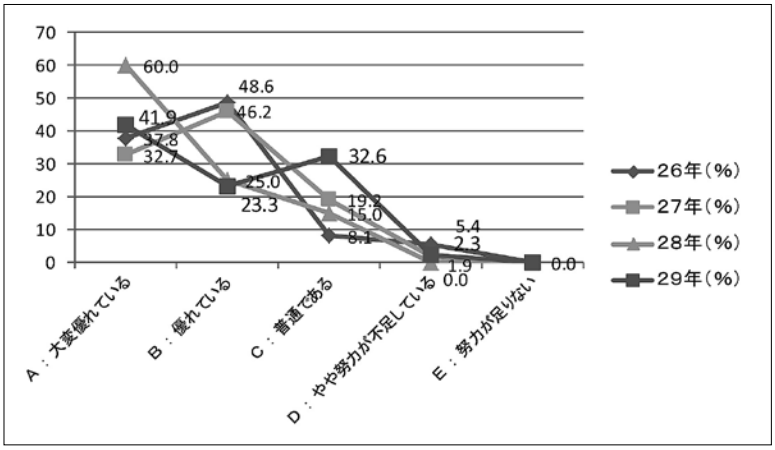

図６．諸注意を守り節度・協調的態度であったか

５．積極的に実習に取り組んでいたか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	43.2	46.2	47.5	32.6
B：優れている	29.7	26.9	40.0	39.5
C：普通である	21.6	23.1	12.5	20.9
D：やや努力が不足している	5.4	3.8	0.0	7.0
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

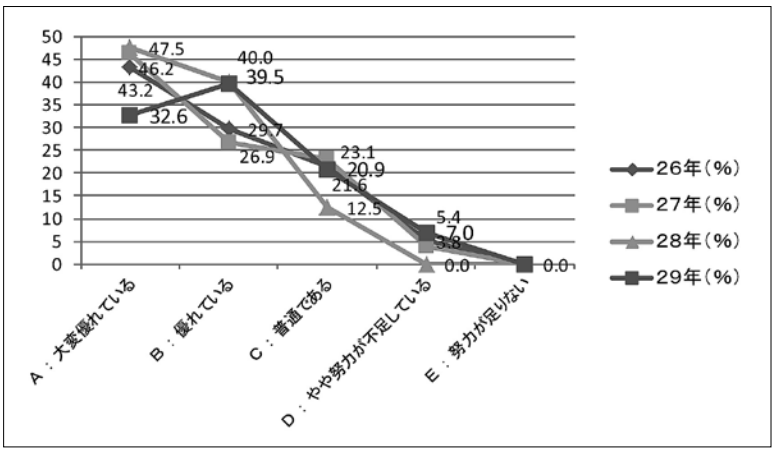

図７．積極的に実習に取り組んでいたか

６．仕事に責任を持っていたか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	51.4	59.5	57.5	37.2
B：優れている	27.0	21.6	27.5	37.2
C：普通である	21.6	16.2	15.0	23.3
D：やや努力が不足している	0.0	2.7	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

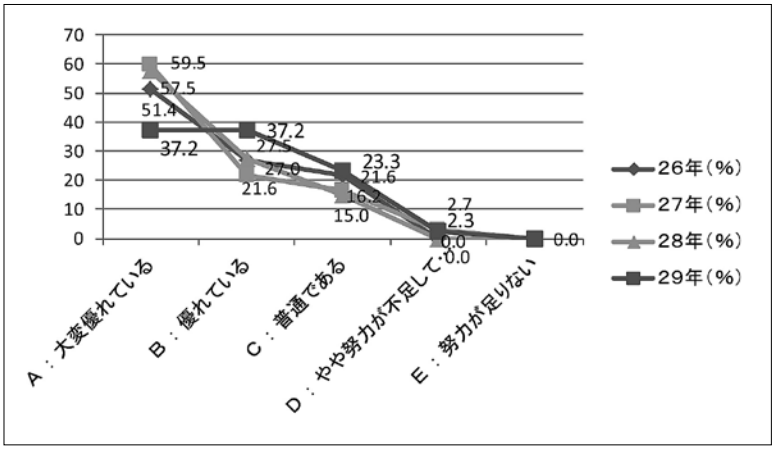

図８．仕事に責任を持っていたか

７．実習指導先への連絡・報告・記録を速やかに出来たか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	16.2	34.6	47.5	41.9
B：優れている	54.1	40.4	35.0	18.6
C：普通である	21.6	15.4	17.5	34.9
D：やや努力が不足している	8.1	9.6	0.0	4.7
E：努力が足りない	1.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

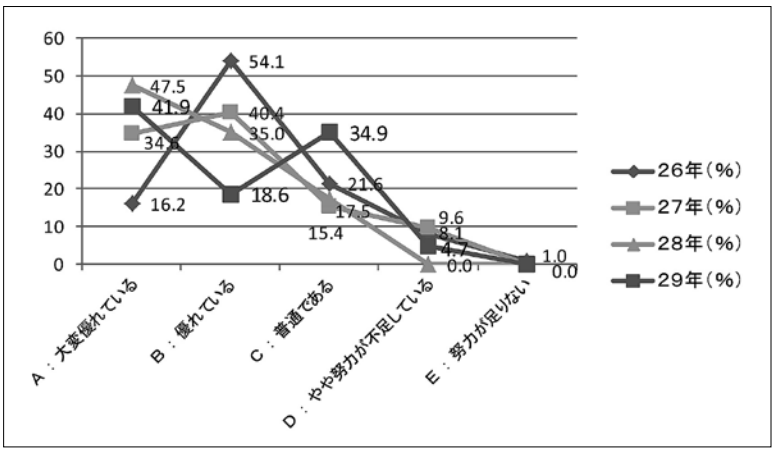

図９．実習指導先への連絡・報告・記録を速やかに出来たか

８．実習目標は達成されたか

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	35.1	44.2	50.0	34.9
B：優れている	48.6	30.8	35.0	41.9
C：普通である	10.8	23.1	15.0	20.9
D：やや努力が不足している	5.4	1.9	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

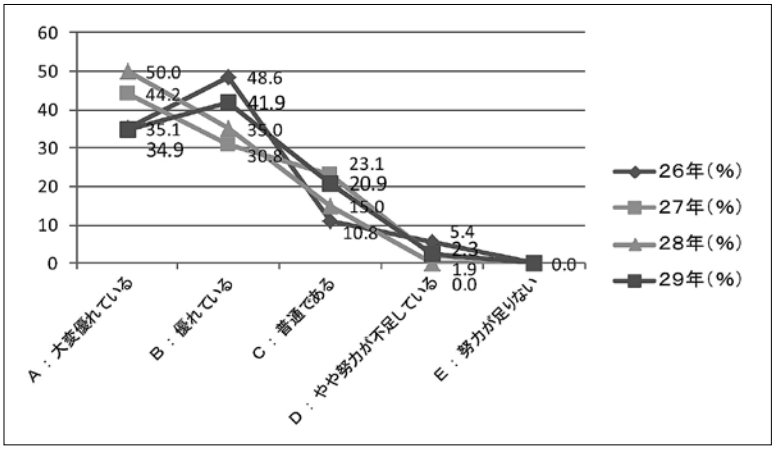

図10．実習目標は達成されたか

９．総合評価

	26年（%）	27年（%）	28年（%）	29年（%）
A：大変優れている	43.2	25.0	55.0	32.6
B：優れている	35.1	46.2	32.5	32.6
C：普通である	18.9	26.9	12.5	32.6
D：やや努力が不足している	2.7	1.9	0.0	2.3
E：努力が足りない	0.0	0.0	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

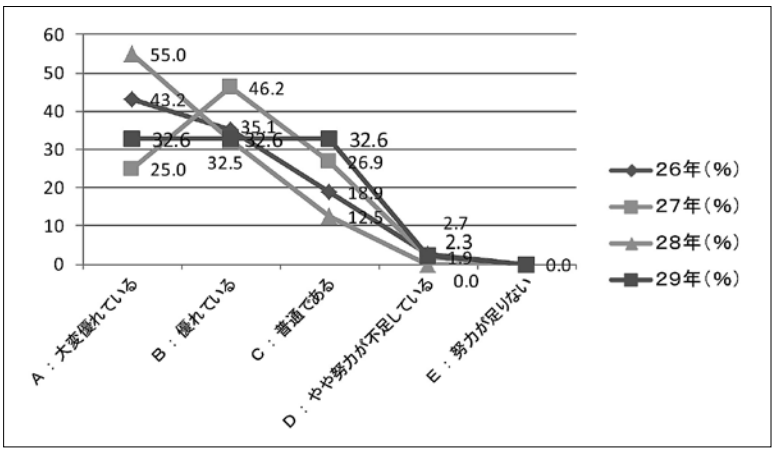

図11．総合評価

４）実習施設の評価と自己評価について

学生の自己評価（平成29年度）を図12に示す。

実習施設評価より自己評価の点数（１～４点を合計して人数で除した平均点）が高く、全ての項目で「大変良くできた」と評価する学生が多い中、特に点数の低い項目が、「自主的、積極的に行動できたか」33％、「責任をもって行動できたか」55％、「意思表示がはっきりとできたか」55％だった。

（３）考　察

１）事前指導に取り入れるべき項目

校外実習の事前・事後指導の問題点を明らかにするため、過去４年間の実習施設評価の内容を検討した。

校外実習は、学生にとって管理栄養士・栄養士の指導のもとに実践を学ぶ貴重な体験となるが、今回のアンケート調査で、９割の学生が、「知識・技術不足」を不安に思っていた。その不安を解消するためには、何が必要なのか、または、どうすれば良いのかを話し合う機会や校

自己評価表

（　）内に当てはまる評価の数字を記入してください。

1．実習をさせていただくという謙虚な態度であったか。
2．学生らしい態度・服装・言葉使いであったか。
3．自主的、積極的に行動できたか。
4．責任をもって行動できたか。
5．意思表示がはっきりとできたか。（挨拶・返事等）
6．身仕度は清潔にできたか。［髪をまとめる・つめ・アクセサリー・時計・帽子（三角巾）・白衣等］
7．勤務時間を守ったか。（遅刻等）
8．安全を心がけたか。
9．体調はベストであったか。
10．給食の運営の実際を知ることができたか。

〈評価〉

大変よくできた……4
よくできた……3
時々できなかった……2
常にできなかった……1

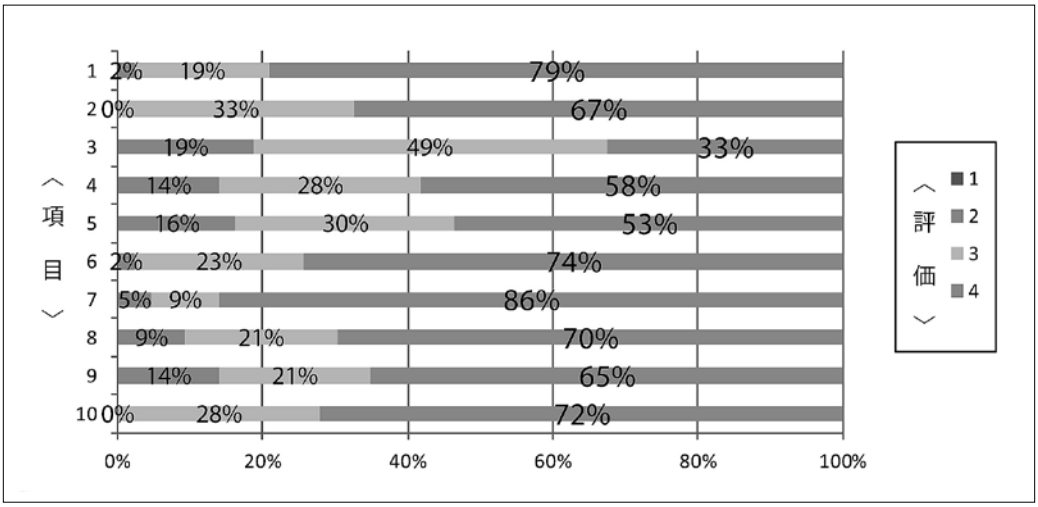

図12．自己評価表（平成29年）

外実習の目的、求められる学生像についても意見交換する場の必要性を痛感した。実習後のアンケート調査の自由記述にもある通り、充実した２週間であったことが伺える。

校外実習の事前指導の中で特に、「校外実習の心得」「礼状の書き方」については、本来、一般教養として身についてしかるべきだが、その教養不足が浮き彫りになっている。また、学生の不安項目として「コミュニケーションの仕方」「調理技術」については、矢島ら[2)]の研究においても学生が実習中大変だったと感じている項目である。本学科でも同様であるが、コミュ

ニケーション能力は、事前指導や短期間で身に付くスキルではないため、日頃からの取り組みの必要性を感じる。「食事療法の知識不足」については、臨床栄養学実習または、応用栄養学実習で学ぶ分野ではあるが、後期（９月～）から開講され２ヶ月の学びで校外実習が始まるため自信を持てるほど学んでいない実情がある。さらに、「給食の運営」の校外実習では、基礎関連科目である調理学、食品学の分野において栄養学を活用する力が必要となる。しかし、「給食の運営」の校外実習と通常の科目内での学習が、学生の頭の中でつながらないという現状である。この様な状況により、各科目との連携を強化し、日頃の学習の重要性を認識させ、事前指導に取り入れるための時間の調整や必要性が示唆された。

２）施設指導者や実習生に求めること

施設指導者が実習生に求めることは、実習施設評価票から「意欲・積極性」「挨拶・言葉使い」「体調管理」マナーや基本的姿勢に関するものが挙げられた。自由記述欄には、学生ひとり一人を観察し、将来に期待を寄せる言葉が多いが、「消極的」「目標に対する取り組み方」に関する記述も多く散見された。

宇和川ら[6]の校外実習に関する意識調査によれば、実習に必要なことに「積極性」「知識」「挨拶」「体調管理」「協調性」をあげる学生が多く、実習後の意識が大きく変化していることを報告している。鎌田ら[7]の調査では、卒業後に生かしたい知識や技術の他に、「挨拶」「言葉使い」「マナー」「礼儀」「仕事に取り組む姿勢」「働き甲斐」など人間的成長に関する内容が報告されている。本学科の実習指導においても知識や技術の習得はもとより、実習生の人間的成長も期待している。

自由記述欄の「包丁の技術」は、実習生が、不足だと感じている項目であり、実習中に「指を切った」との報告が多い。学生の包丁技術は、年々、著しく低下している。包丁技術は、指導なしに練習回数を重ねても、切断速度は速くなるが、正確さに欠けるという報告がある。[8][9][10]向上させるためには、調理実習での繰り返し指導が必要と考えられるが、家庭での日々の調理体験も重要である。

「目標設定とその取り組み」については、毎年、施設指導者より話題となる事項である。施設指導者より、目標や課題にたいして質問に学生が回答できないことや、学生の目標設定が漠然としていること、目的意識が薄いことがあげられる。そのため事前指導では、実習の目的・目標を明確にして指導を行っているが、成果はいまだ実を結んでいない現状である。

2014年（平成26年）、管理栄養士・栄養士養成の「臨地実習及び校外実習の実際」[1]が改訂され、時代の変化に対応するため、入学後、早い時期に体験型教育を導入教育として取り入れる必要性など追加記載された。導入教育の目標として、チュートリアル教育や保健・医療・福祉現場等の見学研修などを通して、「課題発見力と問題解決能力」「良好な人間関係やコミュニ

ケーションをとる力」「食を通して人々の健康と幸せに寄与したいと思う意欲」「管理栄養士・栄養士として専門的な知識や技術を向上させたいと思う態度」などの基礎力を高めることをあげている。

本学科では、「施設見学会」や外部講師による講演会「管理栄養士・栄養士の仕事」について理解を深める目的で実施している。しかし、時間の確保は難しく「目標設定とその取り組み」については今後の課題である。校外実習を学習効果の高いものとするために、より効果的な導入教育の必要性を考える機会となった。

おわりに

本研究は、過去４年間の実習施設担当者の評価を振り返り、校外実習の事前・事後指導の教育内容の充実を図るため検討を行った。短期大学に入学して１年半という短い期間で校外実習に参加させるためには、実習意欲を高め、実習に必要な知識・技術を習得させるか教員の指導力が問われる。現在は、Ⅲ期から校外実習担当教員による事前指導が始まる。今後は、知識・技術の向上には、基礎的な栄養学・食品学・調理学などの教科担当教員の協力体制を深め、日頃から挨拶の励行、授業・実習の時間やレポート提出期限の遵守を強化していきたいと考える。

さらに、給食論実習Ⅱ（学内実習）では、給食業務に必要な基礎的な技術も身に付け、特定給食施設において、多職種と連携し協同して問題解決に取り組むことができるようにする。臨床栄養学実習では、食と健康を学び、健康の維持・増進のため提案できるように実施していきたい。

役割の異なる施設間での実習は、栄養士業務の違いなどを知る良い機会である。そのため、各施設の特色や業務内容を把握することが重要で、実習先が何を求めているか、養成施設側も何を学ばせたいのかを明確に示す必要があると考える。また、その情報を実習生と共有することで目的意識を高めることができるのではないか。

今調査は、全体的な傾向や比較だけとなり、主観的な観点からの考察になってしまった。学生の個々や成長の度合いまでは、活かすことはできなかった。学生対象の自己評価表と施設側栄養士の評価表の質問項目や評価基準も明確ではなかった。今後、項目・評価方法を検討していきたいと思っている。

現行の事前・事後指導は、集中講義として実施しており、学生の負担を少なくするためにどの様に効率良く実施すべきか、今後の検討課題として取り組みたい。

引用文献

１）日本栄養士会・全国栄養士養成施設協会編「臨地実習及び校外実習の実際（2014年版），平成26年４月
２）矢島麻由美，児玉ひろみ：学外実習における実習のあり方を探る，淑徳短期大学研究紀要第47号，17-33（2008）
３）高橋千恵子：校外実習の学習評価，国際学院埼玉短期大学研究紀要Vol27，37-44（2006）
４）水野早苗・横山洋子・伊奈陽子：栄養士養成施設における校外実習について，愛知みずほ大学短期大学部資料
５）西川貴子・森内安子・今本美幸・中野佐和子・才新直子：栄養士校外実習における学生の自己評価の実態と課題，神戸女子短期大学 論改58巻，15-22（2013）
６）宇和川小百合，色川木綿子：栄養士校外実習にみる意識の変化―栄養学専攻の場合―，東京家政大学研究紀要第50集（２），9-16（2009）
７）鎌田久子・富永暁子他：栄養士校外実習における学習効果の検討，大妻女子大学家政系研究紀要，48巻，79-86（2012）
８）安田智子，北山育子，津田千晴，他：栄養士養成校の学生における調理実習の指導方法に関する研究（第３報）―きゅうりの薄切りに見る包丁技術の向上について，東北女子大学・東北女子短期大学紀要N0.54，175-181（2015）
９）湯川隆子，成田美代：大学生における包丁技能の指導と練習の効果，日本家教育学会誌33（２），43-49（1990）
10）清水歌：包丁による切断作業について―練習による熟達―，京都教育大学紀要58，47-69（1981）